



呼吸器内科部長あいさつ



呼吸器内科部長
呼吸器専門医
呼吸器内視鏡専門医
山縣 俊介

呼吸器内科 開設いたしました

今回、呉羽総合病院で呼吸器内科を新規に立ち上げさせていただく事になりました。いわきでは2011年から2016年までの5年ほど診療経験があり、その頃より呼吸器科医の少なさは身に染みて感じておりました。

特に肺癌診療を担う医療機関が乏しいため、多くの肺癌患者がいわき地区で診療を受けることができず、他地域や他県での加療を受けざるを得ない状況と聞いております。微力ではありますが、呼

吸器診療を通じて地域医療に貢献できるよう努力したいと思っております。

具体的には肺炎、膿胸などの感染性肺疾患、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの気道疾患、肺癌や胸膜中皮腫などの悪性疾患、間質性肺炎に代表される、びまん性肺疾患の診療に当たる事になります。

気管支喘息やCOPDなどの一般的な疾患に関しては地域の医療機関の先生方と連携させていただきながら発作時など呼吸状態増悪時の急性期対応を担えるようにしていきたいと考えています。

胸部写真で異常のない咳や息切れなどでは、簡単な肺機能検査などで気道疾患の診断をつける事ができるため、ご紹介いただければ精査のうえ診断および治療方針を検討させていただきます。

将来的には、疾患の指導や吸入の手法指導などの患者様への教育や呼吸リハビリの導入まで行えるような環境づくりを目指しています。

気管支鏡検査等について

胸部異常陰影としてご紹介いただく事が多い肺癌やびまん性肺疾患は、いずれも画像所見のみでは診断や治療方針が定まらないため、組織学的診断が必要に

なります。その為に積極的に気管支鏡検査を行い、確定診断をつけた上で治療を検討させていただきます。

さらに、肺炎などの一般的な疾患でも治療反応性が悪い時などは、抗酸菌(結核や非結核性抗酸菌など)や真菌(アスペルギルスなど)のような特殊な病原微生物による感染症や肺癌の併存を疑い、気管支鏡での検査を必要とする事があります。

気管支鏡検査というと、なかなか敷居の高い、二度とやりたくない検査の筆頭ではありますが、当院では鎮静を行うつつ可能な限り負担を少なく行えるように配慮し、超音波内視鏡を使用してより確実に診断できるよう努めて参ります。

胸水貯留も診断が困難な例が多いため、当科では積極的に局所麻酔下に胸腔鏡を行い、悪性疾患(肺癌や胸膜中皮腫など)や感染性疾患(膿胸や結核性胸膜炎など)の確定診断を行って参る所存です。

簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

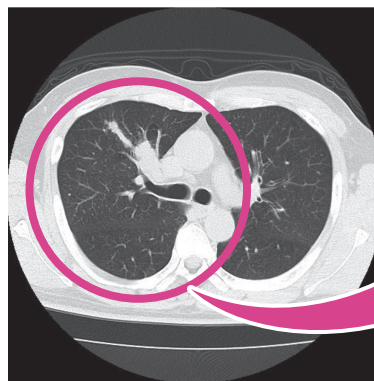
咳や呼吸困難から胸部異常陰影まで診断や治療に迷うような際は、可能な限り対応させていただきますのでご紹介いただけると幸いです。

胸部 CT 検査

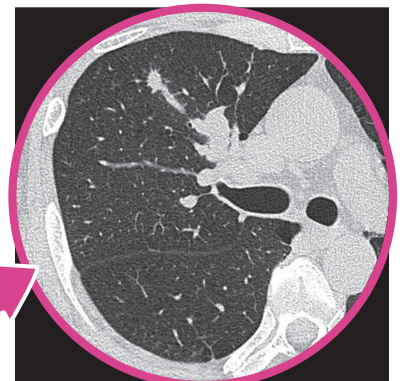
放射線科 主任 渡辺 俊介

胸部 CT 検査は単純胸部 X 線検査に比べ肺や気管、気管支、心臓等の異常がはっきりとわかります。

特に肺の小さながん等の病変の発見には有用です。当院では、胸部 CT 撮影を 0.5mm スライス厚で撮影(被ばくは基準値以下)しているため、結節影、腫瘤等の所見がみられた場合、または、疑わしい場合には高分解能 CT 画像を作成することができ、より精密な画像を提供し、診断に役立てられるよう努めています。



通常の肺の画像



高分解能 CT 画像

呼吸器の検査について

臨床検査科 技師長 河村 幸江

肺機能検査

喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺疾患をはじめとする呼吸器の病気が疑われるときや、その状態をみるに行う検査です。息を吸ったり吐いたりして息を吸う力、吐く力、酸素を取り込む能力などを調べます。

吸ったり吐いたりできる空気の量や息を吐く強さを測定して、肺が正常に機能しているかどうかを調べます。

喀痰細胞診検査

呼吸器の検査として肺がんの検査があります。肺がんは肺の気管支から発生します。このがん細胞が一部剥がれて喀痰の中に出てきます。その喀痰を詳しく調べる検査を細胞診検査と言います。

がんの発見率は、肺の中心部の肺門のがんで80%、末梢の肺野のがんで50%です。特にX線写真で発見されず、喀痰で発見されるがんは全体の30%程度あります。

喀痰塗沫グラム染色検査

グラム染色とは、喀痰をスライドガラスに塗沫し、主として細菌類を色素によって染色する方法の一つで、細菌を分類する基準の一つです。

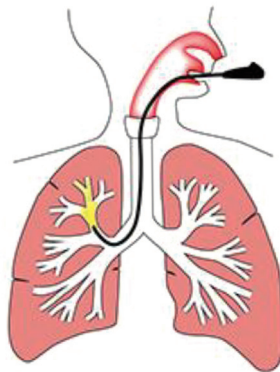
グラム染色によって細菌類は大きく2種類に大別されます。染色によって紫色に染まるグラム陽性菌、紫色に染まらず赤く見えるものをグラム陰性菌といいます。呼吸器疾患が強く疑われる際、塗沫検査が重要視され、その結果で抗菌薬を出す場合があります。

気管支鏡検査

肺や気管支の病気を診断するための内視鏡検査、いわゆる肺カメラの検査です。気管支鏡の太さは約3～6mmくらいの細くて柔らかい管で、一般的な胃カメラより細くできています。

検査中は病変を確認するためにX線で肺を透視したり超音波（エコー）を使用しながら病変部の一部（組織）、細胞、細菌などの診断の決め手となるものを採取します。

医師・看護師・内視鏡技師・放射線技師が協力し合い、検査を進めていきます。



呼吸器疾患を診断・治療する上で、患者様に対して直接的な生体検査の迅速・丁寧な対応、あるいは間接的な患者様の検体を迅速・正確に検査できるようスタッフ一同、日々努めております。



健康管理センターから皆様へ肺がん検査のご案内

肺がんの罹患者数は、年々増加しております。肺がんは、早期ではほぼ無症状で、発見されたときには進行している場合が多く、全身のがんの中では、最も治療が難しいがんの一つとされています。

従来の肺がん検診（喀痰細胞診、胸部レントゲンなど）に比較して、**CTを用いた検診では、肺がん発見率が2倍以上に高くなっており、注目を集めています。**

当院でも早期発見・早期治療の実現のため、下記検査を実施しております！！

【腫瘍マーカー3種】 → ①シフラ ② ProGRP ③ SLX（採血で行う検査です）

①シフラ

扁平上皮がんを高値を示すマーカーです。

② ProGRP

小細胞肺がんの腫瘍マーカーです。

③ SLX

腺がんの進行判定に有効なマーカーです。

肺がんは、大きく「小細胞肺がん」と「非小細胞肺がん」に分けることができ、非小細胞肺がんはさらに「腺がん」「扁平上皮がん」「大細胞がん」などに分けることができます。

- ①肺CT検査 8,640円
- ②肺がんセットA 12,960円
(肺CT検査 + ※腫瘍マーカー3種)
- ③肺がんセットB 16,200円
(肺がんセットA + 喀痰検査)
- ④肺がん腫瘍マーカーセット 5,400円
(シフラ・ProGRP・SLX)

このような方におすすめです！！



- 40歳以上の方
- 喫煙係数 400以上該当する方
(タバコ1日の本数×年数=400以上)
- 呼吸器等に自覚症状をお持ちの方
(せき、たん、胸痛など)
- 家系にがん歴のある方 ● 家族に喫煙者がいる方

ご予約・お問い合わせ

呉羽総合病院 健康管理センター
TEL：0246 - 62 - 3075

メディカルサロンすまいる

第94回 常磐医学会部門賞受賞 ～メディカルサロンのあゆみ～

呉羽総合病院 理事長 緑川 靖彦

このたび常磐医学会部門賞を頂き感謝申し上げます。

呉羽総合病院のメディカルサロン“すまいる”は2015年5月から開催されています。“すまいる”の端緒は、2015年1月24日に開催された、いわき市医師会主催の市民公開講座「がん哲学外来・カフェ 開設記念講演会」に由来します。私はパネラーとして参加し、気分も高揚し、自院での立ち上げに繋がりました。

2016年6月からは、内容を充実させるべく毎月講演会を開催することとし、私は隔月講演、その間を看護部、薬剤部、放射線科、リハビリテーション科、栄養科、臨床検査科、地域連携支援室が順次講演を担当することにしました。参加者こそ大人数ではありませんが常連の方々、入院患者様を含め、お金をかけずにアットホームな手作りのサロンに感謝の声が届いています。

さらに2018年6月からは参加者の中心が高齢者であることも考慮して、講演会終了後リハビリ体操を実施しています。高齢者のサルコペニア予防に対して少しでも貢献できたらと考えています。

今後も呉羽会の仲間とともに、微力ながら地域のお役に立てるよう歩んで参ります。



メディカルサロン“すまいる”
リハビリ体操の様子

メディカルサロン・すまいるは 4周年を迎えます

地域連携支援室 室長 認定がん専門相談員 高木 孝子

2015年5月に開設致しました「メディカルサロン・すまいる」は、おかげさまで4年が経とうとしております。

がんと診断された方、治療を受けられている方、そのご家族様、また、がん以外の慢性疾患でお悩みの方など、自由に参加し交流して頂いております。

はじめは、参加者が2、3人程度でしたが、今では常時15人位集うようになりました。しかし、まだまだ知名度は低く、広報活動が必要だと感じております。

診療日の毎週火曜日、午後2時から3時半まで開催しております。緑川院長をはじめ、がん性疼痛看護認定看護師、認定がん専門相談員、福島県緩和ケア研修会を終了した医療ソーシャルワーカー、管理栄養士等が出席し、参加者の皆様をサポートいたしますので安心してご参加頂けます。参加費無料、申し込み不要です。



緑川医師の勉強会の様子

お問い合わせ

呉羽総合病院 地域連携支援室
TEL：0246-62-3178

連携のつどいおよび合同研修会

第17回いわき南部地区在宅医療・介護多職種連携のつどいおよび合同研修会の報告

2018年11月21日（水）、ガーデンア・イベントホールにいわき南部地区の多職種総勢141人が集いました。

当院院長・緑川医師による「老年症候群」の講演、当院血管外科部長の石田医師による「下肢症状からどんな病気が考えられるかな？」の講演及び症例報告が行われ、参加者の方々から大変貴重な講演で勉強になりましたとの声が多数寄せられました。

また多職種によるパネルディスカッションではパネラーに歯科医師、訪問看護師、地域包括支援センター職員等を迎え、事前にアンケートを頂いた問題点に対して回答を頂き、活発な意見交換と情報の共有が行われました。



緑川院長（左）、石田血管外科部長（右）の講演の様子

「第18回いわき南部地区在宅医療・介護多職種連携のつどい および合同研修会」のお知らせ

【日時】2019年5月22日（水）18:30～【場所】ガーデンア・イベントホール

【内容】呉羽総合病院 院長 緑川靖彦医師による講演

呉羽総合病院 呼吸器内科 部長 山縣俊介医師による講演

■詳しくは右記へお問い合わせください。 地域連携支援室 TEL：0246-62-3178



多職種の集合写真

総合診療内科開設のお知らせ

2019年4月1日より開設しております。
月曜日（午後）、水曜日（午前・午後）、金曜日（午後）に診療を行っております。



総合診療内科部長 総合診療内科専門医 呼吸器内科専門医

千代谷 厚

担当医あいさつ

30年ぶりに呉羽総合病院勤務となりました。総合診療内科の千代谷厚です。医療人として働く最終地にいわきを選びました。呉羽総合病院の一員として地域医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

介護医療院オープンのお知らせ

2019年4月より「介護医療院」をオープンいたしました。



師長
坂本 恵美子

介護医療院師長あいさつ

4月1日より介護療養型医療施設は「介護医療院」としてスタートいたしました。「介護」「医療」2つの言葉を併せ持つ介護医療院は長期的な医療と介護のニーズを持つ高齢者を対象として、経管栄養や喀痰吸引等の「日常的な医療管理」や「看取り・ターミナルケア」等の充実に努めて参ります。利用者様の「生活施設」としての機能を重視し、パーテーションを用いたプライバシーを尊重した居室になりました。利用者様、ご家族へ、安心・安全な医療・看護・介護サービスの提供に努めていきます。



多床室



個室

ケアマネジャーあいさつ

当院介護医療院では入所者の方々が長期に療養生活を送るのにふさわしいように、プライバシーに配慮した環境を整えるとともに、継続的に医療を提供し、希望される方には看取りケアも行います。ケアマネジャーとして入所者の方々やそのご家族、地域の皆様のご期待に応えられるよう、耳を傾けサービスの質の向上に努めて参ります。随時相談を受け付けておりますので、お気軽にご相談下さい。



ケアマネジャー
中島 勝広

お問い合わせ

呉羽総合病院 介護医療院
TEL：0246 - 62 - 8505
(担当/坂本、中島まで)

地域連携支援室

- TEL. 0246 - 63 - 2181 【代表】内線 2240
- TEL. 0246 - 62 - 3178 【直通】
- FAX. 0246 - 62 - 2035
- E-mail renkei@kureha-hosp.com
- <http://www.kureha-hosp.jp/>

■発行 社団医療法人呉羽会 呉羽総合病院
〒974-8232 いわき市錦町落合1-1
TEL. 0246-63-2181
FAX. 0246-63-0552
URL <http://www.kureha-hosp.jp/>
発行人 田中 稔
編集 地域連携支援室